

日本語とブルガリア語における「目」を使った慣用句の比較  
Idioms with 'Eyes' in Japanese and Bulgarian languages

長谷川 スベトラ イワノワ  
Svetla Ivanova HASEGAWA

I. はじめに

目は顔の中で表現性が高く、一番重要だと言える部分である。日本語でもブルガリア語でも目を扱った慣用句が多いということがその証拠になる。大月実(1987: 41)は、「人は情報の八、九割を目から取り入れており、質的にも量的にもこの器官の果たす役割は群を抜いている」と述べた。

日本語とブルガリア語の慣用句で「目」が持つ意味また、二つの言語の相違を見てみよう。

II. 筆者の調査結果から

表 2-1 ブルガリア人にとって、特にどんな慣用句が難しいか調査した。

No	身体語彙慣用句	正答人数	誤答人数	合計	正答率 (%)
1.	目を細くする	15	90	105	14.3
2.	目が高い	17	88	105	16.2
3.	目がない	40	65	105	38.0
4.	目を盗む	15	90	105	14.3
5.	目を丸くする	38	67	105	36.2
6.	ひどい目に合う	41	64	105	39.0
7.	目を離す	64	41	105	61.0
8.	目を向ける	58	47	105	44.8
9.	目に付く	44	61	105	41.9
10.	目が覚める	39	66	105	37.1

表 2-1 から分かるように、特に理解しにくいのは、「目を細くする」、「目が高い」、「目を盗む」である。これらに対する誤解としては、「尊敬する」、「注目する」、「驚く」などが観察された。ブルガリア語にも日本語と同様に「目」には(視線)という意味があるので、「目を離す」と「目を向ける」という表現は正解率が非常に高かった。

以上の慣用句において、その意味の解釈は慣用句を構成している構成要素の和から予測できないものとして考えられる。

III. 『広辞苑』(1998) を使った日本語・ブルガリア語の「目 (oko)」の比較

A. 『広辞苑』(1998) の記述による日・ブの「目」の記述と慣用句の整理

この「目」という言葉は実に用法が多く、『広辞苑』(1998) では、詳細に分類されている。これを引用して、考察を加えていきたい。

一 《名》

1. 物を見る働きをする所。

- ① 視覚器官の通称。眼球と視神経を主要部とし、眼筋・涙器などの付属器から成る。日葡辞書「メ、マナコ」。「一を閉じる」、眼球。

**ブルガリア語** 例えば、「まなこ」で、ブルガリア語では、「oko」である。

- ② 物を見る時の目の辺の様子。めつき。まなざし。「はたから変な一で見られる」

**慣用句** 「目に物を言わず」

**ブルガリア語** 例えば、「gledam s loshi ochi (悪い目で見える)」一→物や人に対して良くない態度をとる、好きではない

- ③ 目に似た形のもの。「うおの一」

**ブルガリア語** 例えば、「yaitsa na ochi (目の卵)」一→目玉焼き

- ④ 動きの中心にあるもの。「台風の一」「騒動の一」

**ブルガリア語** 例えば、「okoto na taifuna (台風の目)」がある。

2. 目の動き。

- ① 見る機能。「一のよい人」

**慣用句** 「目がいい」

**ブルガリア語** 例えば、「nabito oko (打たれた目) 一→経験が豊富で、見る目がある、識別することができる」がある。

- ② 見ること。見えること。

**慣用句** 「目に見える」

**ブルガリア語** 例えば、「oplakvam si ochite (目を濡らす) 一→誰か・何かを見て気持ちがいい」などがある。

- ③ 注意して見ること。見張り。監視。

**慣用句** 「目を張る」

**ブルガリア語** 例えば、「gledam s chetiri ochi (4つの目で見える) 一→よく見る、注意して見る、あることをとても楽しみにしている」などがある。

- ④ 文字を読むこと。読字能力。

**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。

- ⑤ (抽象的に) 物事を見抜く力。洞察力。

**慣用句** 「物を見る目がある」など

**ブルガリア語** 例えば、「imam ochi (目がある) 一→物を正しく評価できる」

- ⑥ 光を感知するなど目に似た働きのあるもの。「レーダーの一」

**ブルガリア語** 例えば、「okoto na kamerata (カメラの目)」などがある。

3. 目に見えたもの。

- ① 目に映る、物の姿・形・様子。「見た一が悪い」

**慣用句** 「目に触れる」など

**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。

- ② 物事に出会った体験。

**慣用句** 「ひどい目に合う」

**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。

4. 点状のもの。
- ① 縦横に並んだ線の交わる所。また、そのすき間。「碁盤の一」、「一が粗い布」  
**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。
- ② 囲碁で、石が活きるために必要で相手が打つことのできない点。眼が二つ以上ある石は活きる。  
**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。
- ③ 線状のものなどが交わった所。「結び一」  
**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。
- ④ 1列に並んだ(筋状の)凸凹やすきま。「のこぎりの一」  
**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。
- ⑤ 賽の面につけた点のしるし。またその点の数。「いい一が出ない」、「勝ち一になる」  
**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。
- ⑥ 量を読むための刻みのしるし。目盛り。  
**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。
5. (「秤の目」から転じて)物の重さに関すること。
- ① 秤で計る量。重さ。「一減り」  
**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。
- ② 匁に同じ。  
**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。
6. 物の接する所。また、そこに生じる筋。「折り一」、「境一」、「季節の変わり一」  
**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。
7. 物見の幅。紋の幅。  
**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。

## 二《接尾》

1. その順番であることを表す。「五番一」、「二つ一」、「三段一」  
**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。
2. その性質・傾向を持つ意を表す。「細一」、「落ち一」  
**ブルガリア語** この言い方は、ブルガリア語には存在していない。

## B. 『広辞苑』(1998)にはなく、ブルガリア語にはある「目」の意味

ブルガリア語辞典で「oko (目)」という言葉調べた結果、意味がほとんど同様であるが、日本語にないものは、「脳」、そして「財産」を意味するものがあつた。例えば、(頭がいい)を意味する「s 14 ochi (14の目で)」と「I na garba si imam ochi (背中にも目がある)」、また、(貧しい)を意味する「nyamam salzi v ochite (目に涙がない)」である。

## IV. 日本語とブルガリア語の「目」を使った慣用句の分類表

ここで、日本語・ブルガリア語の慣用句を3つに分類する。同義同表現、異義同表現、同義異表現で、それぞれの意味を対照して記述する。

<表 4-1> 同義同表現

No	対象言語	慣用句	意味
1.	日	目の前	非常に近い所に
	ブ	Pred ochite	
2.	日	目が開く	理解すること
	ブ	Otvaryat mi se ochite	
3.	日	目を奪われた	それだけを見ているようにしむけられる
	ブ	Otkradnaha mi okoto	
4.	日	目がない	いいものを見分ける力がない。 良い悪いことを判断できない、 「見る目がない」、とても好きである
	ブ	Nyamam ochi	

<表 4-2> 異義同表現

No	対象言語	慣用句	意味
1.	日	目がかたい	(子供などが)夜がふけても眠りたがらない
	ブ	Imam koravi ochi	厚かましい、生意気である
2.	日	目の前が暗くなる	将来に対する希望が失せて、暗い気持ちになる
	ブ	Pritamnyava mi pred ochite	具合が悪くなる、怒りを感じる、失望する
3.	日	目が開く	理解すること
	ブ	Otvaryat mi se ochite	迷いや誤りを自覚して、本来あるべき状態になる

<表 4-3> 同義異表現

No	対象言語	慣用句	意味
1.	日	白い目で見る	冷淡あるいは憎しみを込めて相手を見る
	ブ	Vliza kato tran v ochite 棘のように誰かの目に入る	
2.	日	目を盗む	他の人に見つからないようにする
	ブ	S polovin oko gledam 半分の目で見ると	
3.	日	① 目をふさぐ	① 進んで対処すべき事柄に対し、見て

		② 目をつぶる ③ 目をそむける	見ぬふりをする ② 過失や欠点に気が付いても黙って見逃す、黙認する ③ 相手の失敗や欠点に対してあえて無視する、知ろうとしない、気にしない、知らないふりをする
	ブ	Zakrivam ochi 目を覆う Zatvaryam si ochite 目を閉じる	
4.	日	目を引く	目立った行動や服装などで他人の注目を集める、よく見えるようにする、目立つ、はっきり見える
	ブ	Hvashtam oko 目をとる Vlizam v ochite 目に入る	
5.	日	人目が恥ずかしい	恥ずかしくて見られない、恥をかく
	ブ	Bolyat me ochite 目が痛い	
6.	日	目を注ぐ	どんな小さなことも見落とすまいと、注意して見る
	ブ	Vartya si ochite na 4 目を4つに回す	
7.	日	目から鱗が落ちる	あることがきっかけになって、それまでの迷いからさめたり、間違いに気づき、物事の真相・実態が分かる
	ブ	Pada mi perde ot ochite 目からカーテンが落ちる	
8.	日	目が回る	非常に驚く様子
	ブ	Ne moga da povyarvam na ochite si 目に信じられない	
9.	日	目が黒いうち	生きている様子
	ブ	Dokato ochi gledat 目が見ている間	
10.	日	目が舞う	気絶する、非常に忙しい様子
	ブ	Vchetvoryavat mi se ochite 目が4つになる	
11.	日	目を皿にする	目を大きく開いてよく見る、凝視
	ブ	Pravya si ochite na palachinki 目をクレープにする	
12.	日	目を付ける	注意して見る、注目する
	ブ	Izyajdam s ochi 目で飲み込む Piya s ochi	

		目で飲む	
13.	日	目を三角にする	怒る
	ブ	Prichernyava mi pred ochite 目の前に黒くなる	

#### A. 同義同表現

(1) ~ (4) は同義同表現なので、教授するのに問題はないが、注意点が見られた。例えば、日本語では「目がない」という慣用句において、「好き」と「いいものを見分ける力がない」という二つの意味がある。ブルガリア語の「nyamam ochi (目がない)」は、日本語の2つ目の意味に相当する。この慣用句は、何となくこんな意味らしいと解釈して、その意味を容易に推測することができるが、教授する際に気をつける必要があると思われる。また、ブルガリア語の「nyamam ochi (目がない)」に対応するものとして「imam ochi (目がある)」がある。日本語では、「目がある」は「見る目がある」というように解釈されるようである。また、「目がない」の反対は、「目が高い」があると思われる。

#### B. 異義同表現

「目が開く」について

ブルガリア語の「otvaryam si ochite (目が開く)」では、「理解すること」という意味以外に、「迷いや誤りを自覚して、本来あるべき状態になる」という意味も含まれている。また、日本語では(目が覚める・目を覚ます)という表現も存在しており、これらの慣用句を教える時に、特に注意する必要があると思われる。

#### C. 同義異表現

「目を引く」について

ブルガリア語の「注目を集める」の意味する「hvashtam oko (目をとる)」は、日本語の「目を引く」と同様に、中立のイメージを持つものであるが、「vlizam v ochite (目に入る)」は、マイナスのイメージを含んでいる慣用句である。

「目を注ぐ」について

ブルガリア語の「vartya si ochite na chetiri (目を4つに回す)」という表現は主に物に対して用いられることが多い。それに対して、日本語では「目を注ぐ」の対象は、物・人両方である。

「目を三角にする」について

「怒る」を表す日本語の「目を三角にする」は、ブルガリア語の「prichernya mi pred ochite (目の前に黒くなる)」と同義である。しかし、日本語では、ほとんど第三人称に対して使われており、決して第一人称では使えない。それに対して、ブルガリア語の表現は両方の使い方がある。

#### V. おわりに

心は身体の中で中心となる部分である。慣用句から見たように体の内部の中心は目に対応する。いわゆる、目は身体の見える外部の中心となる。

目は心の窓（日本語）

目は心の鏡（日本語、ブルガリア語）

その捉え方は日本語にもブルガリア語にも共通している。心で感じている喜びや悩みは全て目に表れるので、目が心を反映している。

内部一心＝目－外部

目はコミュニケーションになくてはならない身体部位であり、まさに「心の窓」である。アリストテレスの「人間の感覚のうちで最も好まれるのは視覚である。」がとても相応しく思う。

#### 参考文献

- 1) 尾上兼英監修、1993『成語林』. 旺文社
- 2) 北村孝一、1987『世界ことわざ辞典』. 東京堂出版
- 3) キロワ スベトラ、2002『日本語ブルガリア語の慣用句ことわざ辞典』. シリウス4
- 4) キロワ スベトラ、2005『日本語ブルガリア語の慣用句ことわざ』. シリウス4
- 5) キロワ スベトラ、2006『身体語彙慣用句の日本語・ブルガリア語 対照的研究』名古屋大学大学院文学研究科 博士論文
- 6) 新村出編、1998『広辞苑・第五版』（CD-ROM版）. 岩波書店
- 7) 土肥直道、1996『からだ語辞典』. 騒人社
- 8) 2000.『日本国語大辞典』. 小学館
- 9) 宮地裕、1985「慣用句の周辺」.『日本語学』1月号、明治書院
- 10) Nicheva K, S. Spasova-Mihailova, Cholakova Kr. 1975 Phraseological Dictionary of the Bulgarian Language Sofia.